

第五十回 宗像歌会

平成二十九年九月十六日(土)

自由詠

墜落して行く中
「今迄は幸せな人生だった」と
手帳に走り書き
御巢鷹山の
涙でかすむ茜雲

大槻 幸子

まるまると太った
ねこじやらし
風にゆすられ
秋は
いかがですかと

岡本 まさ子



秋一番驚いた
むかご、あけびが
舗道から見えた
他人の庭
更に 足元にトカゲ

杉本 明美



題詠『祭・祭り』

息子を産んで二日目
ふるさとはお祭り
うちよりごちそうだと
母が言った
鯛のお頭つき病院食

岡本 まさ子



山車^{だし}囲み
老いも若きも
幼子も
着物も仮装も
指の先まで踊ってる

山本 佳代子



縁日ならぬ
ショップが並んで
都会はいつも
お祭り気分
着飾った子らが
浮かれて歩く

高原 美智子

